



桐生ロータリークラブ週報

2005年

国際ロータリー第2840地区 2005-2006年度 国際ロータリーのテーマ



超我の奉仕

Service above self

R.I 会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

善意というものがいいなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原勝樹

会長 館 盛治 幹事 川島 康雄

クラブ会報・広報委員会 木村 滋洸 藤井 征夫 佐々木 裕 吉野雅比古 石島 久司 大友 一之

8月1日号

第2532回例会

(7月25日(月) 第3例会)

- | | | |
|-----------------------------|------------------|----------------|
| 1. 点鐘 | 7. 前年度会長挨拶 | 前原 正一君 |
| 2. ロータリーソング齊唱 | 8. 会長の時間 | |
| 3. 来訪者紹介 | 9. 幹事報告 | |
| 4. ガバナー補佐挨拶 | 10. 委員会報告 | |
| RID2840 群馬第2分区 Aグループ | | |
| ガバナー補佐 森 喜美男君 | | |
| 5. 2004-2005年度収支決算報告 竹内 康雄君 | 11. 卓話 「新年度を迎えて」 | 社会奉仕委員長 野間 義弘君 |
| 6. 2004-2005年度会計監査報告 松島 宏明君 | | 国際奉仕委員長 前原 勝良君 |
| | 12. 点鐘 | |

ようこそビジター

〈群馬第2分区 Aグループ ガバナー補佐〉
森 喜美男君

〈桐生赤城RC〉

清水 哲君

ガバナー補佐挨拶



RID2840
群馬第2分区 Aグループ
ガバナー補佐
森 喜美男君

ガバナー補佐をお引き受けすることになりました。ガバナー補佐と名前が変わりまして大変任務が重くなりました。昨年の8月にパスト会長の阿部さんと、現会長の館さんと、現幹事の川島さんがどうしても会いたいからということで、たぶんロータリークラブの事だろうと思い、あまりいい予感はしませんでしたが、お会いいたしました。そしたらガバナー補佐をやれと言うことでした。阿部さんの場合には親子二代でお世話になっているものですから、断ろうと思いましたが断りきれなかった。当初は分区代理、その後アシスタントガバナー、そして私の代からガ

バナー補佐、今まで2840地区では41人おりまして初代は森喜作さんで、私の父でございました。その41名の分区代理の中で当桐生クラブには11人いらっしゃいまして、皆さん大変苦労なさったことと思いますが、この度お受けすることとなりました。

1905年にポールハリスがロータリークラブを立ち上げてからちょうど100年がたちまして、今や世界のロータリー数が168カ国、国連が191ありますから、ほぼ国連に匹敵するくらいの数であります。会員数も120万人おりまして、クラブ数が3万2000。そして日本に第1号のロータリークラブが誕生いたしましたのは1905年、ロータリークラブが誕生して15年経った1920年に東京ロータリークラブができました。その15年の間に855のロータリークラブができました。それから100年たちまして、日本でも2329クラブ10万人のロータリアンをようしておますが、昨今の社会情勢で会員が減少しております。2840地区も過去5年で年間100人単位で減ってきておりまして、大変危機感を感じております。とにかく、クラブ組織の強化と維持をやってほしいというところが、R

例会場 桐生俱楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM
ホームページ <http://www.Kiryu.co.jp/Kiryurc/> メール Kiryu-rc@ktv.ne.jp

Iの方針であり、曾我ガバナーの重点ポイントであります。7つの重点目標のうち最重要施策は会員増強であります。そんなことから、21世紀委員会を立ち上げてクラブの活性化を図りなさいと言うことありますが、桐生クラブはどちらかといえば先発のクラブでありますし、50周年を迎えた当時の阿部会長が桐生ロータリークラブ総合特別委員会を立ち上げてやってこられております。まさしくそれを2840地区の各クラブでやっていきなさいと言うことがガバナーの方針でありますし、その手助けをするのがガバナー補佐の役目でございます。各クラブのクラブ協議会で話をするというわけで、このクラブが4回目であります。最初に西RC、次に赤城RC、南RCそして本日の桐生RC、その後中央RCで終わるわけですが、それを4回繰り返すわけです。その度に各クラブの皆さんのお躍ぶりを紙に書いて提出しなければならないと言うことで、これは大変な事だと感じております。とにかく、会員増強そしてクラブの組織強化を館長のもとに頑張っていただきたいと思います。それから、会員増強もさることながら退会防止もよろしくお願い致します。



前年度会長挨拶

前年度会長
前原 正一君

毎年のことながら、本年も2004年～2005年度の会計決算報告の審議が大変スムーズに行われました。質疑のある方もいらっしゃるとは思いますが、前会長前原正一に免じましてお許しいただきたいと思います。竹内先生、そして監査をしていただきました矢野会員、松島会員に感謝を申し上げます。私も養田幹事と共に精一杯やらせていただきました。やり残した事もあるように感じますが、それは館長と川島幹事への継続という事で頑張っていただきたいと思います。以上で私からの報告とさせて頂きます。

会長の時間

まず報告から始めます。7月12日(火)美喜仁にて、クラブ奉仕関連委員会の家庭集会があり、15名が参加、親睦を計りました。7月13日(水)桐生俱楽部1号室にて、RACの初例会があり、新世代奉仕委員会の須永博之君と出席してきました。7月16日(土)地区会員組織強化セミナーに森喜美男ガバナー補佐、金子篤郎会長エレクト、蓮直孝会員増強委員長と参加してきました。本年度はだいぶ地区セミナーが多い年度です。7月20日(木)堤町のレストラン小川亭にて家族会総会がありました。養田隆前年度幹事、野間義弘前親睦活動委員長、牛腸章副会長、川島康雄幹事、坪井良廣SAA、金子篤郎会長エレクト、堀副幹事、大島武司親睦活動委員長の設営、司会にて無事総会も終り、和気藹々の中楽しくおいしい食事にて親睦が出来ました。以上が報告です。

幹事報告

- 国際ロータリーより、公式名簿およびロータリーワールドが届いております。
- 桐生市ボランティア協議会より、事務所移転のお知らせが届いております。
新住所 〒376-0031
桐生市本町5-62(かわち文具内)
TEL0277-44-0501 FAX0277-44-1351
- 足利東RCより、事務所移転のお知らせが届いております。
新住所 〒326-0801
足利市有楽町835
(足利商工会議所・北事務所内)
TEL0284-40-4870 FAX0284-40-4871
- 桐生中央RCより、クラブ現況報告書が届いております。
- 桐生南、桐生西、桐生中央、桐生赤城の各RCより週報到着。
- 例会終了後、第1回クラブ協議会を開催いたしましたので、理事・役員・委員長の皆様はご出席のほど宜しくお願い致します。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成17年7月25日)：総員61名・出席49名
平成17年7月4日例会修正出席率：77.08%

ロータリー財団委員会

群馬第2分区 Aグループ ガバナー補佐 森喜美男君より桐生ロータリー訪問を祝して、ロータリー財団拠金いただきました。

森喜美男会員 \$300

米山奖学委員会

群馬第2分区 Aグループ 森ガバナー補佐をお迎えして、森喜美男会員よりいただきました。

森喜美男会員 30,000円

ニコニコボックス

森喜美男君…ガバナー補佐の立場で／館 盛治君…森ガバナー補佐をお迎えして／本田雄一郎君…清水哲君においていただきました／藤井征夫君…昨日、桐生ガスプラザ前で元気な川村隆さんご夫妻にお逢いしました。／下山嘉一郎君…全国予備学校協議会理事就任／木村滋洸君・宮野英世君…誕生日祝／木村滋洸君・大河原賢治君…結婚祝／木村滋洸君…クラブ会報委員長就任／中村俊介君…米山奖学委員長就任／野間義弘君・前原勝良君…卓話をさせて頂きました／岡部信一郎君…新世代奉仕委員長退任／大島武司君・前原 勝君・藤江聰吉君・中村俊介君・阿部高久君・森喜美男君・宮野英世君…写真をいただきました。



卓話

「新年度を迎えて」

2005～2006年度

社会奉仕委員長

野間 義弘君

社会奉仕委員長の野間です。メンバーは副委員長に前幹事の養田さん、委員に疋田先生、ロータリー財団の委員長の篠田さん、出席の委員長の村田さんです。よろしくお願ひいたします。

私は、平成10年1月に入会してニコニコ箱委員会・ローターアクト委員会・職業奉仕委員会・副SAA・クラブ会報・広報・インター・アクト・親睦委員会副委員長・親睦委員会委員長をやらせていただきました。

〈社会奉仕委員会〉前原勝樹PG著「ロータリー入門書」より抜粋

ロータリーは社会奉仕をする団体であると一般には受け取られ、ロータリアン自身もそう考えている向きが多いようです。そのように社会奉仕が重視されているのですから、これについてははっきりとした信念を持って当たっていかなければなりません。社会奉仕は職業奉仕の理想を広く社会生活に展開したものですが、職業奉仕は自己の職場という舞台がありますから、比較的取り組みやすいところもありますけれど、社会奉仕となるとあまりに範囲が広すぎて、いわば手のつけようがないというところです。しかもロータリアンの数にも限りがあり、クラブの資力にも限界がありますので、これをどのような形で受け止めるかが問題です。

従来、国際ロータリーでは奉仕の基本的な考え方を次のように明示してきました。すなわち「ロータリークラブの集団行動よりもロータリアンの個人的活動の方がロータリーの精神に一層合致しているし、かつ社会的な指導力、影響力も大きい。よって、ロータリークラブの社会奉仕活動は、ロータリアンを奉仕という点で訓練し実習させるためのものと考えるべきである」としています。

これによると、ロータリークラブの社会奉仕は、それ自身に目的があるというよりは、ロータリアンに奉仕をさせるための訓練と実習であると考えるべきであり、奉仕の主体はクラブよりはむしろロータリアン個人にあるということになります。すなわち奉仕の意義や仕方を学んだロータリアン個人が、各自その生活の分野でその実力を発揮して社会奉仕をしてもらいたい、また、その奉仕活動が一般地域社会に対して指導力を発揮して、よりよい社会をつくる先達になってほしい、ということになると思います。

この主旨でロータリーを見直すうなずける点が多々あります。

まず役員の一年交代の点ですが、もしロータリーが団体としての奉仕活動を目的としているとしたら、まことに非能率な組織といわざるを得ません。もしそなら経営能力があり、最も適任と思われる会員に任せて、何年でも継続でやるべきでしょう。しかし訓練機関だとすれば役員交代を行って全会員にいろいろな勉強の機会を与えるのは当然といえましょう。次に従来各ロータリークラブの奉仕事業はいかにも小規模であったという点があります。外部からみると、ロータリーは「奉仕、奉仕」と唱え、しかもあんなに大もの会員ぞろいの団体としてはいかにもケチだという声も聞きます。正にそうみえるでしょう。しかしこの点を別に気にすることはできません。

寄付そのものを目的にしているのなら多額の寄付が出来ましょう。ところがロータリークラブの奉仕は、

会員の訓練であり、寄贈物は実習作品でいわばサンプルにすぎなかったのです。我々が社会にみてもらいたいのは、寄付物件や金額の多寡ではなく、会員がいかに奉仕的生活をし、奉仕という点で社会の指導者になっているかどうかということでした。

また、従来国際ロータリーは「ロータリーの社会奉仕の目標はその年度内で完了するものを選べ」、としてきました。それはあくまで訓練という立場に立っての話です。社会は年々変遷し、数年前には緊急、最適の奉仕であったものが、たちまちその意義を失ってしまう世の中です。そこでいろいろの教材を扱うことによって、奉仕への視野を広めることも出来ます。また、継続事業をしていたのでは、役員の年々の交代の意味もなくなり、マンネリ化の原因になります。つまりロータリーは団体で大きな奉仕事業をするのが目的ではなく、個人ロータリアンを奉仕という点で訓練しようとしていた事が分かると思います。

クラブの独立性ということも強調されています。それはクラブは自分の地域に向かって独自の奉仕計画を立てるということです。クラブは地域指導者の学校であるという観点からその地域に則した教材で勉強してもらいたいのです。

ロータリークラブが、限界を明らかにした地域に立脚して組織されている以上、地域社会を重視するのは当然のことですから、この点からみて、ロータリーの社会奉仕活動はクラブ単位で行うのが本来の姿であるといえましょう。

しかしロータリーの発展と共にロータリーに対する世間の期待も高まり、その社会奉仕も次第に大規模な集団的奉仕活動が求められるようになりました。1992年の規定審議会で採択した「社会奉仕に関する声明」では、「社会奉仕はロータリアン一人一人が個々の生活の上で超私の奉仕を行う機会」であるが、「各ロータリークラブは国際レベルのロータリープログラムと活動を通じて社会奉仕を強化」し、「プロジェクトの実行に当たっては地域社会の参加」を求める、「目的達成のために他団体と協力する」ことが奨励されています。またR.I.は「地区やロータリークラブの力を結集すれば効果の期待できるようなプログラム」を提案する責務を負うことになりました。この声明により、社会奉仕の集団奉仕的な色彩が明確になったといえましょう。R.I.理事会による「国際ロータリーの使命」でも「個人と団体による奉仕活動に第一の眼目を置き」と明記されています。

1990年に社会奉仕委員会組織の改定案が出され、社会奉仕委員会は委員長、および社会奉仕の特定分野を担当するすべての委員会の委員長を委員として構成されることになりました。社会奉仕の特定分野としては人間尊重、地域発展、環境保全、協同奉仕の各委員会が含まれます。R.I.は「特に関心の高い社会奉仕活動」として、環境保全、識字率の向上、薬物乱用防止、高齢者への心づかい、エイズ教育、の5つを挙げていますが、それぞれの国情に応じた奉仕活動を見つけるべきであり、高齢化社会を迎えた日本では、環境保全問題と並んで、特に「高齢者への心づかい」が重要課題となるでしょう。

また、高齢化社会を支えるべき若者に対する支援

も重大な課題であり、特に薬物乱用を始めとする青少年非行については一層関心を高める必要があります。1996年2月第2週に設定された「家族と地域社会週間」(1997年から「家族週間」と改称)を利用して、こうした問題に対する奉仕活動を重点的に展開することが望されます。

個人個人がロータリーの役職を全うすることにより、地域社会においてもその経験を生かしてリーダーとして活躍していくこと、委員会としても地域に立脚した社会奉仕活動を展開していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



「新年度を迎えて」

2005~2006年度
国際奉仕委員長
前原 勝良君

ロータリーの国際奉仕は、1922年のロサンゼルス大会で、「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と平和を推進すること」と明文化されました。ロータリアンが、国際理解、国際親善、国際平和を推進するために実施できる、すべての奉仕活動を指します。その内容は通常次の四つの分野に分類できます。①世界社会奉仕活動 WCS (World Community Service) ②国際レベルの教育および文化交流。この中に青少年交換・財団奨学生・研究グループ交換(GSE)・ロータリー友情交換などがあります。③世界理解月間(2月)と催し。④国際的な会合への出席です。

世界社会奉仕WCSは、国際奉仕部門の一つです。1963年のRI会長カール・ミラーは「組み合わせ地区」という制度を作り、世界の地区と地区とを組み合わせ、その地区内のロータリークラブ同士に相互に文通をおこなわせ、互いに情報交換をおこなう内に、それぞれの問題をとらえて、国際奉仕の計画を実現させようとした。これがきっかけとなり1967年「世界社会奉仕 World Community Service」という新しい奉仕の実践活動が始まりました。後進国民の援助要請を国際ロータリーに登録させ、これに先進国のロータリークラブが応ずるという制度です。資金や物資がなく、援助を求めている国のロータリーに、物資的、技術的、専門的援助をし、国際理解と親善を推進するプロジェクトです。誰がどのような援助を希望しているか、国際ロータリーの「WCSプロジェクト交換室」が仲介しています。尚実施母体になることは、あくまでもロータリアンまたはクラブであることを念頭におく必要があります。

次に若い人達の世代に長期に渡り異文化交流の機会を提供、国際理解を深める目的で企画された青少年交換、財団奨学生、研究グループ交換(GSE)について触れてみます。現在当クラブから財団奨学生として新井佳織さんが渡英しています。滞在

延長のため自費留学の形にはなっていますが、帰国までは十分な見守りが必要と考えます。

今年は研究グループ交換(GSE)に関して、大きな予定があります。10月29日から11月7日まで、ドイツから5名の若い就労青年が来桐し教育的・文化的内容の研修を実践して行く予定です。ホームステイを原則としますので会員各位のご協力をお願いする次第です。

国際奉仕の目的は世界平和の樹立であります。WCSへの積極的参加、若い人達の海外派遣の手伝い、またロータリアン各位の国際大会への参加など、国際分野でのロータリー活動を当委員会がお手伝いいたします。是非ご希望、ご意見がありましたらお声掛け下さい。

2005-2006年度家族会総会が開催されました

7月20日(水)午前11時30分より 小川亭にて



副会長挨拶／牛脇キヨ子さん

幹事挨拶／川島長子さん



養田和子さん

疋田房子さん

前年度副会長・幹事へ花束の贈呈



会食懇談



会食懇談